



地域と協働で、健康長寿社会の実現にむけた コミュニティづくりに取り組む

地域包括ケア教育研究センター センター長 並河 徹

地域包括ケア教育研究センター（以下、センター）は、中山間地を抱え国内トップクラスの高齢化が進行する島根県でこそ可能な、「地域貢献と融合可能な先端的研究」を目指して10年余りにわたって研究・教育・地域貢献活動を続けてきました。生活習慣病はもとより、加齢に伴う身体機能、認知機能の低下を防ぎ、いっそうの健康長寿を実現するために、コミュニティのもつ潜在的な力を活用しようという考え方のもと活動を行っています。

活動の第一の柱は、自治体との協働により、これまでにおよそ10,000人の住民の方々のご協力のもとで行っている健康調査です。地域の「つながり」を健康課題の克服に役立てていくにはどうすれば良いのか、それを地域の皆さまや様々な分野の研究者とともに考えています。第二の柱はAcademic Knowledge Network (AKN)の活動です。これは、センターが持っている研究のノウハウやリソースを活用して、地域医療の第一線で活躍している医師たちが自身の持つ研究シーズを研究成果として結実できるようにサポートする仕組みです。このようにセンターは、島根県で暮らすだれもがいきいきといつもまでも元気に過ごせるよう、地域住民や医療関係者のエンパワメントを推進できるよう活動を行っています。

